資料1

第5回検討会議での議論のポイント

令和3年2月

内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）

第5回検討会議での議論を踏まえた論点

※赤字部分：特に第6回で対応している観点

第5回検討会議での主なご意見	対応の方向性
● 履修科目の考え方について、Ⅰ．データ構造とアルゴリズム、Ⅱ．AI・データサイエンス基礎、Ⅲ．AI・データサイエンス実践の枠組みを守りつつ、 ➢ 学ぶべきものを取捨選択できるようにすべきである。 ➢ Ⅰ、Ⅱ内には、Ⅲを実行する上で必要な科目を配置すればよい。 ➢ Ⅰ、Ⅱ内の科目のレベル感、水準は自由に設定して良いが、全て履修すべきである。 ➢ 他単位で読み替えが可能である場合は読み替えを可とし、必ずしもこの枠組みの中で履修する必要はない。	➢ 「応用基礎レベル」の考え方、申請要件、認定要件等について、これまでご議論いただいた内容を踏まえて合意し、取りまとめ資料に反映する。
● 倫理に関する科目は必要であり、問題がどのようにして生じるか、データはどのように保有すべきか(疎結合状態にする、ＩＤと利活用情報を分離する)等も学ぶべきである。	
● 認定制度の申請要件に関し、 ➢ 25万人を対象とするため、大学単位での申請が必須である。 ➢ 全学で同レベルのカリキュラムを準備するのはハードルが高く申請が減る可能性があるため、学部やキャンパス単位の申請を認めるべきである。	
● 優良プログラムに関し、 ➢ より良いものを広めるためリテラシーレベルと同様に、優良プログラムを設けるべきである。 ➢ プログラムのグレードが入社などの場面で有効に働くことが理想である。	